

基本構想の目的

○未来につながる持続可能で住みやすいまちづくりを、社会全体の力による「共創」によって推進する

人口減少や地球温暖化といった時代の大きな変化を捉え、20年、30年、その先の未来も視野に入れた、持続可能で住みやすいまちづくりを、社会全体の力による「共創」によって進めていきます。

新たな東静岡のまちづくりは、鉄道軸で結ばれた静岡駅・清水駅周辺等のまちづくりとあいまって、まちの魅力を高め、人が集まり交流・滞在を創出するとともに、最先端の文化・スポーツ・音楽を提供するなど、静岡市に新たな価値を生み出します。

○アリーナや新県立中央図書館の整備等の機会を活かした、東静岡地区の新たなまちづくり

東静岡地区は、ＪＲと静岡鉄道が近接している場所であり、本市の南北・東西、葵・駿河・清水の3区の連携という点でも重要な地理的位置にあります。

東静岡駅周辺では、アリーナや新県立中央図書館の整備が予定され、北口は「スポーツ・音楽」、南口は「文化・教育」として新しい文化・スポーツ等の中心となる、まちづくりの絶好の時機を迎えています。

北口のアリーナ、南口の新県立中央図書館や既存施設のグランシップなどの施設（ハード）と、そこで提供されるサービス（ソフト）が連携することで、まちに新しい価値（最先端の文化・スポーツ・音楽の体験・体感など）をもたらします。

この新しい価値を上手に活用し、東静岡地区に人が集まる仕組みを作るとともに、利便性が高く、安心・安全で住みやすい環境づくりを進めることが重要です。

これに向けて、行政と市民・事業者等が共にまちづくりを推進するために「東静岡地区まちづくり基本構想」を策定しました。

基本構想の全体像

<めざす将来像>

<まちづくりの5つの方針>

<まちづくりの主要プロジェクト>

「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」

① 文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり

② 若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり

③ 誰もが移動しやすく、住みやすいまちづくり

④ 人々の交流や、豊かで心地良い生活を生み出す空間づくり

⑤ 緑と自然豊かな都市環境づくり

Ａ 静岡市アリーナ【該当方針：①②④⑤】

Ｂ 新県立中央図書館【該当方針：①②④⑤】

Ｃ ペDESTリアンデッキ【該当方針：③④】

Ｄ 新たな交通システムの導入【該当方針：③】

Ｅ 土地利用規制（都市計画）の見直し【該当方針：①②④】

Ｆ 里山公園（谷津山）の保全・活用【該当方針：⑤】

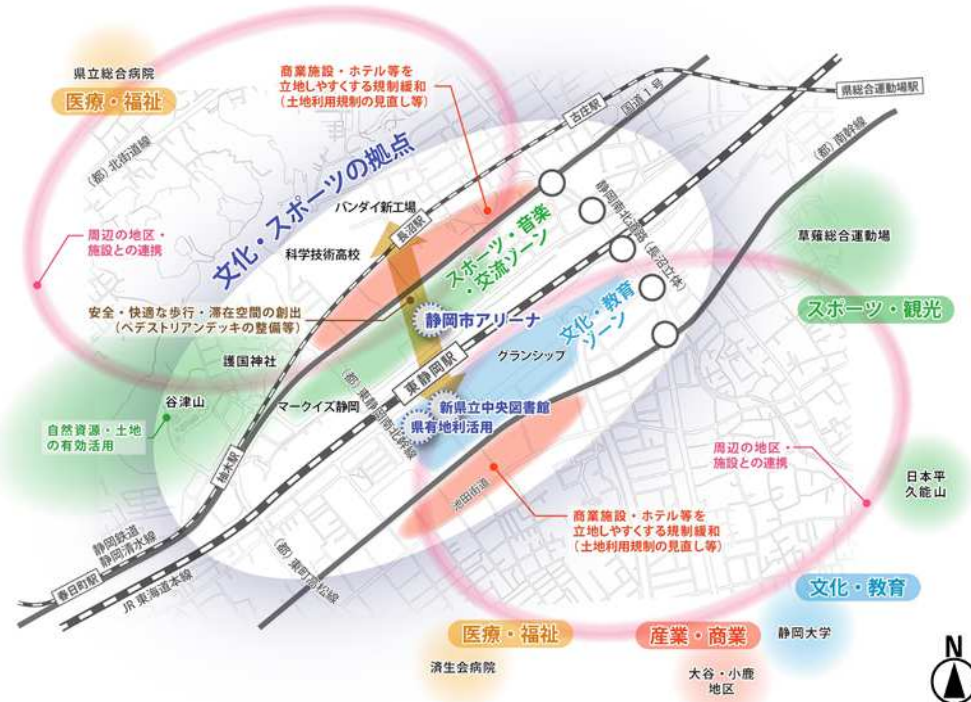
Ｇ 低未利用地を活用した、多様な魅力を高める都市開発【今後、具体化を図るプロジェクト】

1. めざす将来像

「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」

～最先端の文化・スポーツ等による新たな交流・滞在の創出と、安心して住み続けられる住環境が共存する、非日常と日常が融合した新時代のまちづくり～

<まちづくりの将来イメージ>



長崎スタジアムシティ（提供：長崎スタジアムシティ）

アリーナ単体ではなく、駅直結のアリーナを核として、観る・学ぶ・憩う・買い物する・食べる・泊まるなどの多様な魅力があふれるまちづくりを進めます。



エディオンピースウィング広島

東静岡駅や長沼駅とアリーナをペDESTリアンデッキ等で一体的につなぐことにより、まちに訪れる人々・暮らす人々が安全・快適に歩行・滞在することができます。

2. まちづくりの5つの方針

① 文化・スポーツの拠点としての、まちの新たな価値づくり

- 東静岡駅北口のアリーナや、南口の新県立中央図書館の整備を活かした、文化・スポーツ・音楽と触れ合える空間づくり
- 既存のグランシップを含めた各ハード施設の連携と、施設を活用した人が集まる仕組みづくり
- 文化・スポーツの資源等の固有の魅力を活かした、選ばれるまちづくり

② 若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり

- 若者・子育て世代が「住み続けたい、訪れたい」、進学や就職で一度静岡市を離れても、帰ってきたくなるまちづくり
- 市外・県外の方が「住んでみたい、訪れてみたい」と思えるまちづくり
- まち全体で「青春（自分のやりたいことに向かって真剣に取り組む状態）」を、育み・支え・応援できる空間・仕組みづくり
- 学生や子ども達と地域をつなぐ場での滞在・交流を通して、地域への関心や愛着を育てる（教育機関との連携等）

③ 誰もが移動しやすく、住みやすいまちづくり

- 公共交通や自転車、次世代モビリティ*、モビリティハブ*の導入も含めた、誰もが移動しやすいまちづくり（バリアフリー、ユニバーサルデザイン、利便性の高い公共交通、自転車の走行空間や駐輪スペースの確保等）
- 安全・安心で住みやすいまちづくり（AIオンデマンド交通*等の新たな技術・交通体系を活用した、医療・福祉施設や教育施設、産業・商業施設との連携）
- 東静岡駅～長沼駅の連絡動線の強化（ペDESTリアンデッキの整備等）
- 地域の生活環境の保全に向けた、国道1号等の道路の渋滞対策

*次世代モビリティ：最新技術を用いて従来の交通手段や交通システムを進化させたもの
 *モビリティハブ：公共交通機関やシェアモビリティ等複数のモビリティの結節の拠点
 *AIオンデマンド交通：AIを活用し、利用者予約に對しリアルタイムに最適配車を行うシステム

④ 人々の交流や、豊かで心地良い生活を生み出す空間づくり

- 土地の使い方やまちの密度のルールの柔軟な見直しによる良質な民間投資の誘発（ホテル・商業施設等の立地や、生活環境の改善）
- 低未利用地を活用した都市開発による魅力的な空間づくり
- 多様な人々が思い思いに過ごすことができる、人中心で居心地が良く歩きたくなる空間づくり
- 公共施設・民間施設のオープンスペースにおける居場所となる空間づくり
- 災害時には安全に避難できる空間や設備の確保 等

⑤ 緑と自然豊かな都市環境づくり

- 健康で快適な生活・気候変動対策・生物多様性の確保等に向けた、緑地保全や緑化推進
- 市民が身近に自然と親しむ里山公園として、谷津山などの自然環境の保全や活用の推進
- 公共建築物や民間施設での敷地内緑化などによる、良質な都市緑地の創出
- 環境に配慮した都市開発事業の促進（ZEB*、再生可能エネルギーの導入等）

*ZEB：省エネ、創エネによりエネルギー消費量の収支ゼロを目指す建物



3. まちづくりの主要プロジェクト

① 静岡市アリーナ 【該当する方針：①②④⑤】

■めざすアリーナ

- 最高峰のプロスポーツの試合や大きなコンサートなど、これまでの市内の施設では開催できなかった、さまざまな大型イベントを開催できる多目的アリーナ（8,000席以上）の実現をめざします。

■防災施設としてのアリーナ

- 大きな災害のときは、広い屋内スペースを活かした支援物資の受入れ、仕分けのほか、避難所として避難者の受入れを担う防災拠点となります。
- 非常用電源や水などのライフラインを備えることで、地域に安心・安全をもたらします。



アリーナのイメージ（沖縄アリーナ）

② 新県立中央図書館 【該当する方針：①②④⑤】

- 従来の図書館サービスを拡充するとともに、新たに「図書館の枠を超えた学び・交流し・創造する場」の整備が、静岡県により計画されています。



図書館のイメージ ※出典:静岡県HP

③ ペDESTリアンデッキ 【該当する方針：③④】

- 東静岡駅、長沼駅とアリーナをつなぎ、歩行者と自動車の動線を分けることで、来場者や住民が安全・快適に通行・滞在できるよう、ペDESTリアンデッキ（高架の歩行者空間）を整備します。

④ 新たな交通システムの導入【該当する方針：③】

- 来訪者の地区内外の回遊を促すとともに、地区住民の買い物や通院など日常生活の利便性向上を図るため、AI（人工知能）を活用した、移動のニーズに合わせて運行する乗り合いの交通手段の導入をめざします。

⑤ 土地利用規制（都市計画）の見直し 【該当する方針：①②④】

- 地区内の土地のより自由かつ高度な利用を可能とし、商業施設やホテル等が立地しやすくなるよう、国道1号沿線、南幹線沿線等の土地の使い方やまちの密度のルールをバランスよく変えていくことを検討します。

⑥ 里山公園（谷津山）の保全・活用 【該当する方針：⑤】

- 谷津山は、市民が徒歩等でアクセスできる市街地に近接した貴重な自然環境であり、社会全体の力による「共創」により自然環境の保全と活用を進めていきます。

⑦ 低未利用地を活用した、多様な魅力を高める都市開発【今後、具体化を図るプロジェクト】

- 地区内に点在する県有地・市有地等の低未利用地を活用し、県市連携による魅力的な都市空間の実現に向けた都市開発を進めます。



※出典：LIFE Streaming



※出典：東静岡「緑と水が織りなす新しい東静岡」子育て世代集う、持続可能な理想都市



※出典：ヒガシズ 際立つ！

多様な魅力を高める都市開発のイメージ（コンペでの提案より）

■ 役割分担と今後の進め方

まちづくりを進めていくためには、市民や事業者等の様々な主体と行政がお互いに役割を明確にしつつ、連携してまちづくりを進めていくことが必要です。

